

平成 29 年 3 月 15 日

男子体操競技情報 25 号

(公財)日本体操協会
東京オリンピック強化本部
審判委員会男子体操競技審判本部

【目次】

1. 平成 28 年度一種審判員研修会、第 14 期国際審判講習会 Q&A	1
2. 2017 年度内規	9
3. おわりに	10

1. 平成 28 年度一種審判員研修会、第 14 期国際審判講習会 Q & A

2016 年 7 月に FIG(国際体操連盟)は 2017 年版採点規則の原案を公表し、12 月にスロバキアの首都ブラチスラバ市で第 14 期大陸間国際審判講習会が開催されました。審判委員会男子体操競技審判本部では、7 月に公表された原案、大陸間講習の内容をもとに 1 月に兵庫と東京にて 1 種審判員研修会を実施しました。また、1 月末には FIG 男子技術委員を招聘し国際審判員認定講習会(東京 A コース)を実施しました。そこで、国内で開催した 3 回の研修・講習会で提示された質問とその回答を情報として通知することとします。

□ 一般条項

凡例：ND=「ニュートラルディダクション」

Q1：鉄棒やつり輪のワイヤーを締めたり緩めたりするのは違反にならないですか？

A：なりません。演技開始時にはご注意ください。

Q2：採点規則内にある「競技規則」とは何のことですか？

A：採点規則とは異なる、大会運営に関わる決まり事が記載された規則で、FIG の HP からダウンロードできます。度々、変更のある規約なので翻訳して配布することはしていません。

Q3：技をやり直して繰り返せるのは、どんな場合ですか？

A：落下、器具上の落下、あん馬の終末技、跳馬の助走です。

Q4：地方大会でコーチがない場合、選手本人で問合せはできますか？

A：はい。監督会議にてその旨伝えてください。

Q5：ルール変更に伴い社会人 2 部ルール等の変更はありますか？

A：検討中です。

Q6：「コーチの権利」器械の調整について、次の種目の最終演技者の採点中に準備することは認められますか？

A：採点規則の中では認められていません。国内では競技会が規定する競技規則に従ってください。

□ ゆか

Q1：側方宙返りがロウ・ユン以外、すべて削除されたのは何故ですか？

A：横向きの着地が禁止されたからです。

Q2：「タマヨ」が格下げされたのは何故でしょうか？

A：宙返りの原則からです。後方伸身2回宙返りひねりと同じ難度になります。

Q3：前とび正面支持臥を3回行ったら減点する項目は廃止ですか？

A：はい。

Q4：宙返りの連続の後、直接とび正面支持臥になった場合、技の認定や組合せ加点はどのようになりますか？

A：大欠点を伴うため、組合せ加点は取れません。ただし、着地に至った技の難度は認定されます。

Q5：開脚座からの力十字倒立で、脚がゆかから離れる手前でわずかに脚に体重がかかり立位の姿勢が見られた場合、どのように技を認定しますか？

A：左右開脚座：A 難度、立位から十字倒立：B 難度。

Q6：終末技が繰り返された場合、終末技を最初にカウントするのではないか？

A：いいえ。「特別な繰り返し」ではないので、出現順に認定し、繰り返された技はカウントしません。

Q7：コーナー移動は、ジャンプすれば180° ターンを含まなくても良いのですか？

A：単純なジャンプも180° ターンをしなければなりません。

Q8：ゆかにおいて演技終了の姿勢とは、どのような姿勢ですか？

A：他の種目同様、脚をそろえて演技終了を示した時点です。

□ あん馬

*凡例：L=「一把手上旋回」、B=「シュテクリ B」、A=「シュテクリ A」、R=「一把手上ロシアン転向」

Q1：BBLA のとき、E フロップは認定されるのでしょうか？

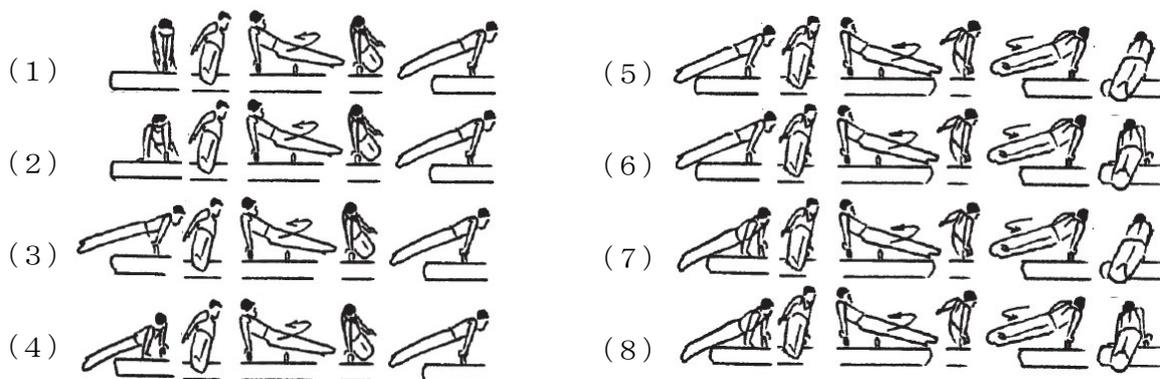
A：前ルールでの BBLA の捌きは、BLLL に判定され E フロップが成立します。

その他の例として

- ・ BLLL = D フロップ (BLL) + 難度なし (L)
- ・ LBRB = コンバイン (LBR) + 難度なし (B)
- ・ LLLR = B 難度 (L) + 難度なし (LLR)

Q2：ループ（一把手上縦向き旋回）の説明を詳しくお願いします。

A：以下の 8 種類がループになります。



- (1) 一把手上横向き支持から 90° 転向を伴い一把手上で旋回を回る
 - (2) 馬端横向きから 90° 転向を伴い一把手上で旋回を回る
 - (3) 一把手上縦向き支持から一把手上で旋回を回る
 - (4) 馬端縦向き支持から一把手上で旋回を回る
 - (5) 一把手上縦向き支持から 90° 転向を伴い一把手上で旋回を回る
 - (6) 一把手上縦向き支持から 90° 転向を伴い一把手上で旋回を回り馬端横向き支持となる
 - (7) 馬端縦向き支持から 90° 転向を伴い一把手上で旋回を回り横向き支持となる
 - (8) 馬端縦向き支持から 90° 転向を伴い一把手上で旋回を回り馬端横向き支持となる
- ※ 馬端からの実施は両把手から行っても同様である。

Q3：シュテクリ B の説明をお願いします。

A：シュテクリ B は、常に 180° の転向が条件となります。

前ルールまでは、90° の転向のみでもシュテクリ B で判断される捌きがありましたが、現行ルールでは 180° の転向が条件となります。90° のみの場合、ループとなります。

Q4 : BLL・L から倒立に上げた場合、ループ 3 回連続で倒立に上げる技も不成立になりますか？

A : 成立します。この場合は、BLL+L 倒立と判定することができます。

Q5 : トンフェイ、ロス等の後、両足を割って難度にない捌きをした場合、どのような判断ですか？

A : その直前の技が認定されません。トンフェイ、ロス、ロシアン等の下向き転向を伴う技は、その後に旋回 (少なくとも 1/2 以上の旋回) に続けるか、R180° 以上に続いた場合のみ成立します。

Q6 : トンフェイの後、両足入れ背面支持から片足振動等の動きに持ち込んだ場合、トンフェイは成立しますか？

A : 成立します。

Q7 : 次の場合、どのように認定しますか？

ロシアン 1080°転向 (D)、あん部馬背ロシアン 1080°転向 (E)、ロシアン 720°転向下り (C)

A : ① ロシアン 720°転向下り (終末技を優先)、
② あん部馬背ロシアン 1080°転向 (難度順)、
③ ロシアン 1080° 転向 (D) はカウントなし (ロシアン系の制限に抵触)

Q8 : 一把手上から馬端へ 1/3 前移動した場合の A 難度はないのですか？

A : 「前移動 1/3」は削除されたので、ありません。

Q9 : 馬端-把手-把手-馬端の移動を開脚で行うと、E 難度ですか？

A : D 難度です。(MTC 確認済)

Q10 : D 難度の横移動で、開始の時に両手が馬端、最後が片手馬端片手把手という従来の捌きをした場合、これまで通り D 難度が取れますか？

A : 取れません、C 難度になります。

Q11 : 「ショーンとベズゴは立位から行くと二段階格下げになる」とあるが、とびついて直接全転向をはじめる捌きのことですか？

A : はい。「入れ」～「抜き」から行えば E 難度です。

□ つり輪

Q1 : ホンマ支持から振り上げて開脚前拳支持は構成上の減点になりますか？

A : なりません。

Q2 : グループⅡとⅢの連続の後、ヤマワキを実施し、続いてグループⅡとⅢの技を連続した場合、ヤマワキが10技に含まれていない場合でも問題ないか？

A : 10技に含まれていないと連続性を切ることはできなくなります。「10技内」かつ「同一グループの5技以内」でないといけません。

Q3 : つり輪の「ほん転逆上がり倒立」が演技に入っていたら必ずそれをカウントするということですが、同様にゆかの2回宙返りもカウントしますか？

A : カウントします。つり輪の振動倒立やゆかの2回宙返り技は、カウントされる10技に含まれていなければNDが発生します。

Q4 : 次の場合、どのように認定しますか？

①アザリアン～②ナカヤマ～③前振り上がり脚前挙支持～④伸腕屈身力倒立

A : ① D 難度 ② 繰り返し（同一終末姿勢） ③ B 難度 ④ 力技4連続で不認定

Q5 : 次の場合、どのように認定しますか？

①水平支持～②中水平支持～③十字懸垂（静止無し）～④背面水平懸垂

A : ① C 難度 ② D 難度 ③ 不認定 ④ 4連続で不認定

Q6 : 「振動倒立技」が必要ですが、終末姿勢が「倒立」という技が全て当てはまりますか？

A : はい。ただし、後ろ振り上がり十字倒立等では満たすことはできません。

Q7 : ホンマ支持から振り上げて開脚前挙支持は構成上の減点になりますか？

A : なりません。

□ 跳馬

Q1 : 種目別決勝で、2本目に1本目と同じグループから実施した場合の減点は、2本目の得点からですか、2本の平均得点からですか？

A : 2本目の得点からNDとなります。

□ 平行棒

Q1 : 前振り1/4ひねり単棒倒立やディアミドフ1/4ひねり単棒倒立から片腕支持1回(5/4)ひねり支持を行った場合、両者の難度は格上げしないのですか？

A : 前振り1/4ひねり単棒倒立・ディアミドフ1/4ひねり単棒倒立の難度は上がりません。

Q2 : 前振り1/4ひねり単棒倒立で、軸手を持ち換えて450°ひねりのヒーリーはE難度になりますか？

A : なりません。

Q3：単棒からのヒーリー腕支持（I-69）はB難度以上の振動技から行う必要がありますか？

A：ありません。

Q4：「ヒーリー系」の技に、ヒーリー腕支持は含まれますか？

A：はい。難度表にも掲載してある通り、単棒からヒーリー腕支持を実施すればC難度になります。

Q5：棒下宙返り倒立～棒下宙返り単棒倒立～ヒーリーで、ヒーリーが不認定になった場合、2つ目の棒下宙返り単棒倒立は不認定となりますか？

A：はい。

Q6：次の場合の難度判定はどうですか？

①棒下宙返り単棒倒立（単独）、②棒下宙返り単棒倒立（単独）、③棒下宙返り単棒倒立～ヒーリー

A：①D難度、②繰り返し、③E難度・E難度

Q7：①棒下宙返り単棒倒立～ヒーリー、②車輪単棒倒立～ヒーリー腕支持

A：①E難度・E難度、②D難度・C難度

Q8：意図的に屈膝モイを行った場合も、0.3の減点になるのですか？

A：身体が水平位になるまでに膝がまがった場合は減点があります。

Q9：ディアミドフやリチャードの3/4ひねりの局面で、余分な支持を入れてしまった場合、難度は認定されますか？

A：不認定となります。

Q10：前振りひねり倒立から、2秒止まらずに棒上宙返り倒立等は減点になるのですか？

A：なりません。

□ 鉄棒

Q1：片手懸垂を3回行った場合、どのように認定するのですか？

A：出現順に数えて3回目は不認定で、0.3のNDとなります。

アドラー系の技を3回行った場合は、難度の高いものから2つが認定され、3回実施したことによる0.3のNDとなります。

Q2：手前から巻き込む捌きのシュタルダーの減点はどうなりますか？

A：倒立からの外れは減点対象になります。

Q3 : ゲイロードやゲイロードⅡを持ち、振り上がって直接アドラー系の技につなげても減点はないですか？

A : 構成上、問題ありません。

Q4 : D 難度の手放し技を 3 回連続した場合の加点はどうなるのか？

A : 0.2+0.2 で合計 0.4 の組合せ加点です。

Q5 : グループⅡを 6 つ行っても加点されるのですか？

A : 6 つ目の低い難度が 10 技に入らなければ、加点に参与することができます。

Q6 : 手放し技後のエンドーは構成として認められますか？

A : はい。またこの場合、開始局面で倒立からの外れに対する減点対象にもなりません。

Q7 : 開脚ピアッティと屈身ピアッティを行うことは可能ですか？

A : はい。両者は別枠であり繰り返しの条項にも抵触しないので構いません。

□ その他

Q1 : 講習会後に変更された内容はありますか？

A : 以下の通りです。(赤文字 : 追加 黄色塗りつぶし : 変更)

《あん馬》

3. 特別な繰り返し (採点規則65P)

a) 1 演技中、縦向きでの 3 部分移動は、前移動 1 回、後ろ移動 1 回のみ認定される。

この制約に該当する技は以下の 8 技に限定する。

- ・ 縦向き前移動 3/3 (馬端～把手～把手～馬端) (C : III - 45)
- ・ マジャール (D : III - 46)
- ・ ドリッグス (E : III - 41)
- ・ 開脚旋回縦向き前移動 3/3 (E : III-47)
- ・ ビロゼルチェフ (C : III - 51)
- ・ シバド (D : III - 58)
- ・ 縦向き後ろ移動 3/3 (馬端～把手～把手～馬端) (C : III - 57)
- ・ 開脚旋回縦向き後ろ移動 3/3 (E : III-59)

《つり輪》

1 2-2 条-2 Dスコアについて (採点規則 91P)

2. グループⅡやⅢを連続して 4 回続けることはできず、4 回目以降は D 審判によって難度は認定されない。3 連続の後にグループⅠの B 難度以上の技が実施されれば改めて 3 連続が可能である (ただし、け上がり・後方け上がり系、およびその同一枠の

技を除く)。このB難度以上の振動技はカウントされる10技内でかつ同一グループ内で上位5技以内に含まれていなければならない。

《平行棒》

3. 補足説明 (採点規則 152P)

f) ヒーリー系の技は、その認定を受けるには360°以上のひねりを必要とする。

補足：(B難度以上の)振動技で単棒横向き倒立になり、「単棒倒立から片腕支持1回(以上)ひねり支持」でE難度を獲得するには、ヒーリーで450°のひねりを必要とする。

注：単棒横向き倒立から、3/4ひねりの技はB難度で、I-50とみなす。

4. 特別な繰り返し (採点規則 152P)

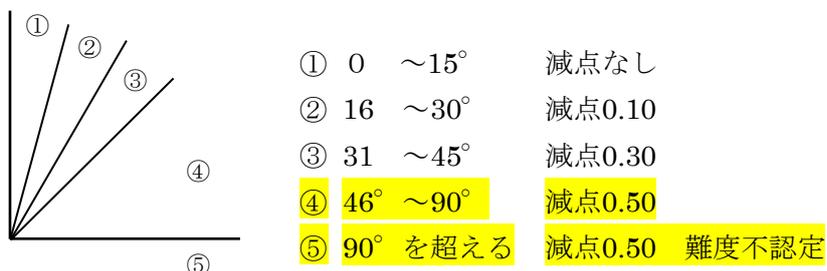
c) 最大2回までの棒下宙返り(逆上がり)倒立技

(Ⅲ-106、107、108、114、119、120、130、131、136)

《鉄棒》

3. 実施と演技構成の方向性 (採点規則184P)

b) ・ひねりを伴って、倒立になる、または経過する技について



6. 繰り返しに関する特例 (採点規則 186P)

b) ひねり技について、同系の技は1回だけ実施できる。2回目からは繰り返すとみなされ、難度順により価値が認められない。

17. 大逆手車輪の難度の判定について (採点規則187P)

例：

1) 倒立から50°逸脱したアドラー、大逆手で真下とバーの上を通過し、再び大逆手で真下を通過してとび逆手持ち換え=アドラー(C難度、0.5の角度減点)+大逆手車輪(B難度)

2. 2017 年度内規

以下に示す競技会以外の大会で適用する。

- ・ 第 71 回全日本体操競技選手権大会（個人総合選手権、種目別選手権、団体選手権）
- ・ 第 56 回NHK杯体操
- ・ 第 71 回全日本学生体操競技選手権大会
- ・ 2017 全日本ジュニア体操競技選手権大会（1 部）
- ・ 第 50 回全日本シニア・マスターズ体操競技選手権大会（シニアの部）

① 終末技グループ得点の追加について

- ・ A 難度の終末技・・・ +0.10
- ・ B 難度の終末技・・・ +0.20

② 下記の宙返り下りは A 難度とする

- ・ つり輪、平行棒、鉄棒の前方・後方かかえ込み宙返り下り

□ マナー・モラルについて

前サイクルよりマナー・モラルについての啓蒙をすすめた結果、徐々に浸透が進んでいるように感じています。今季も同様に継続して取り組んでいきたいと存じます。

採点規則に記載されていない競技場内での行動や振る舞いについて、以下の注意事項を守っていただきますようお願い申し上げます。

① 着地の際のガッツポーズ

演技の終了を示すポーズと礼をすることは演技の一部です。着地直後にガッツポーズをとることは控えてください。

② 平行棒での事前準備

跳馬終了後、種目移動前の事前の準備や演技終了後での器械の調整に関わる人数は 3 名までと致します。また、選手が着地のポーズをとっている最中に次の選手やコーチが着地マットに上がることをないようにお願いします。

③ マグネシウムや霧吹き等の使用方法

準備の際、マグネシウムをばら撒くように使いマットを白く汚したり、霧吹きや雑巾を投げるなど乱雑に扱うシーンが見受けられます。また、手に大量にマグネシウムを付けた後、叩いたり、擦り落とす光景も見られます。器械器具や消耗品を問わず、用具の取り扱いには注意を払うようにお願いします。

④ ローテーション時の整列

全種目とも審判席の前に整列をしてください。また、整列直前での器械やプロテクターの調整は控え、他種目で整列している選手を待たせないようにしてください。

⑤ 採点間や待機時（ウォームアップ時以外）のマット上での練習

特別に許可された大会を除き、マットや跳馬の助走路上でのウォームアップは控えてください。

⑥ 頭髪や服装、タトゥー

国際大会でタトゥーを入れている他国の選手が見受けられます。文化・風習の違いはありますが、日本においては禁止と致します。また、多くの方が不快に感じる奇抜な頭髪や服の着こなしなどは避けてください。体操競技は美を競うスポーツです。アピールは美しい演技で表現してください。

⑦ 電子機器の使用

スマートフォン等の電子機器によるアリーナ内での通信は禁止されています。競技中は使用を避けてください。競技会の様子や成績などについて、SNS等による情報発信は不特定多数が閲覧する場への投稿であることを十分に理解してください。「著作権」や「肖像権」といったプライバシーの侵害となる可能性も起こり得ますので、責任をもって対応をしてください。取り扱いには十分ご配慮願います。

近年の簡易な通信伝達手段の普及により、様々な情報が瞬く間に伝播されています。大変便利な反面、真偽が判らない情報も制限なく発信されており、選手の個人情報に関することや発信元が不明なルールに関することなども見受けられます。そのような情報には惑わされることないようにするとともに発信源にならないようご注意ください。

※ その他、選手・コーチ・審判員は、競技会場内外における自身の行動にもご注意ください。マナーアップへのご協力をお願い致します。

3. おわりに

審判委員会
男子体操競技審判本部
本部長 高橋 孝徳

1月に開催された1種伝達研修会には1種審判員、全国大会にかかわるコーチ、報道関係者など多くの方々が参加され、約750名が受講されました。会場を提供していただいた甲南大学、立教大学の関係の皆様にはお礼と感謝を申し上げます。

今サイクルよりカテゴリー試験を実施し、その結果カテゴリーⅠは32名、カテゴリーⅡは57名の方が認定されました。カテゴリーⅡ以上の方が今後も増加するように、来年度には1種新規認定講習会、今年度受講されなかった方の保留解除と併せて、カテゴリー試験も設定いたします。多くの方々のカテゴリーアップを期待しています。

2017年版採点規則が施行され、既に現場においては新しいルールに則った技の取捨選択、演技構成の構築、演技実施における質の向上に余念がないことと存じます。リオ五輪では団体と個人総合で金メダルを獲得し、最優先とした最大の目標を達成することができました。しかし、種目別での金メダルを含む複数のメダル獲得という目標は未だ果たせていません。団体、個人、種目別と全てにおいて目標を達成するためには、さらなる精進のもと、Dスコアの向上、高いEスコアの獲得を目指していかなければなりません。跳馬を除く5種目は要求グループが5つから4つに減ったことにより、Dスコアは単純に0.5下がることとなりますが、同一グループから5つの技が選択できるようになり、得意とするグループを基

盤に高難度技を組み入れることによって、得点を高める策も考えられます。一方、今回のルール改正で E スコアの評価はより詳細で厳格になり、世界の動向においても出来栄を重視する傾向が見受けられます。正確な姿勢はもちろんですが、特に着地減点や静止技の静止時間、角度逸脱の減点について今一度ルールを確認して頂きますようよろしくお願いいたします。

2020 年東京五輪でリオ大会以上の成績を実現するためには、私たちが掲げた「美しい体操」をより昇華し、「魅せる体操」を体現できるようにすることが必須です。そのためには、D スコアを向上させながらも、減点のない捌きだけで満足するのではなく、細部にわたる動きの表現までも工夫し、味わいや深みを醸し出し、観衆を魅了し感動を与える演技を目指していただきたいと存じます。

選手、コーチ、関係者ともにリオで勝利した誇りと自信を持ちつつも、各々が次のステップに進むための自己の課題を真摯に受け止め、驕ることなく研鑽に励んでください。

東京五輪まで残り 3 年となりました。選手にとっては一年一年が勝負の年となるでしょう。選手が新しいルールにいち早く対応し、素晴らしい演技を披露してくれることを期待しています。

東京五輪に向けて素晴らしいスタートが切れることを祈願して情報 25 号を傳達いたします。

以上